

資 料 編

- 健康だて21後期改定（基本目標5）
- 伊達市復興ビジョン（概要）

5 放射能リスクのもとでの健康管理

●伊達市の目指す市民像●

放射能を正しく知り自分自身の免疫力を高める

【現状と課題】

平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故により、放射性物質が広範囲に飛散し、伊達市も汚染の被害を受けました。市内の一部は放射線量が年間20mSvをこえると推定され『特定避難勧奨地点』の指定を受けるなど、市民全体に放射能の健康被害への不安が大きくなっています。

市ではこの事態に対し、迅速な除染作業や地場産品への風評被害の払拭に向けた取り組みを進め、健康管理対策についても、積算線量計（ガラスバッジ）の配付、測定や、内部被ばく検査（ホールボディカウンター検査）の実施、健康相談を行うなどの取り組みを行い、福島県で実施する県民健康調査（基本調査、詳細調査、甲状腺検査など）と併せて少しでも市民の健康不安を和らげる取り組みを継続しています。

しかし、放射線による健康被害についてはこれまで検証結果がないことから、専門家においても意見が分かれることもあり、安全は図られても安心は得られないのが現状です。

「健康だて21」の見直しに当たっては、放射線リスクという市民が置かれている環境が変化した中において、いかに健康を維持していくのかという視点で今後5年間の方向を示していく必要があります。

今回の見直しに際し実施した市民アンケートによれば、放射能汚染への不安の有無の回答では8割を超える市民が不安を抱えており、特に子供（乳幼児・小学生）がいる家庭においてその傾向が顕著になっています。不安の内容は、食生活への不安、外での運動への不安（特に女性）が突出しています。また、ストレスの有無、解消との関連では、ストレスを解消できない人の8割を超える人が食生活への不安を抱えていることが示されています。さらに、放射線対策として市に求める施策は内部被ばく検査が最も多く、同時に食品の安全性の確立も強く求められています。

【今後の取り組み】

放射能汚染への対応が長期にわたる取り組みを余儀なくされることが確実な中、市では放射能物質の直接的な削減を市内全域にわたる除染事業により進めていくこととなります。一方現時点では各調査の取り組みの結果により、外部被ばく、内部被ばくとも一定程度数値が示されつつある段階にもあります。しかし、これまでに経験したことのない放射能への不安が消えることはなく、放射能を怖がるあまり食品添加物や偏食、運動不足などによる新たな健康リスクも報告されています。

そのような中で健康管理における取り組みは、放射能による健康被害リスクへの不安を取り除き、自分の免疫力を高めることを重要課題と位置づけ、取り組むこととします。

■健康管理計画を策定します。

※健康管理に直接かかわる取り組みのほか、関係機関と連携しながら正しい知識の提供や食品測定器の活用による食品の安全性確立に向けて取り組みます。

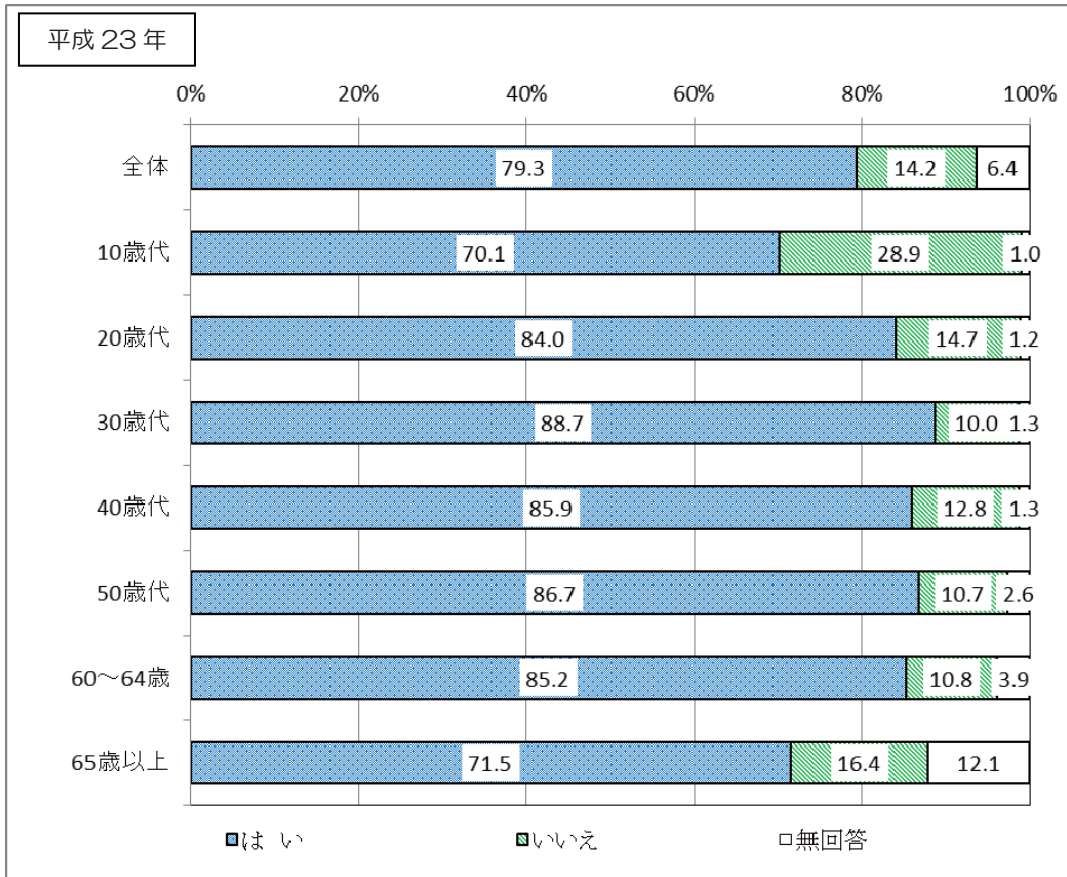
■外部被ばく、内部被ばくの調査、及び福島県で行う県民健康調査との連携を通じた健康管理体制を構築します。

■放射能にかかる健康不安を受け止め、市民に寄り添いながら妊婦から高齢者まで各ライフステージに応じた相談体制（定期相談会、訪問指導）を構築します。

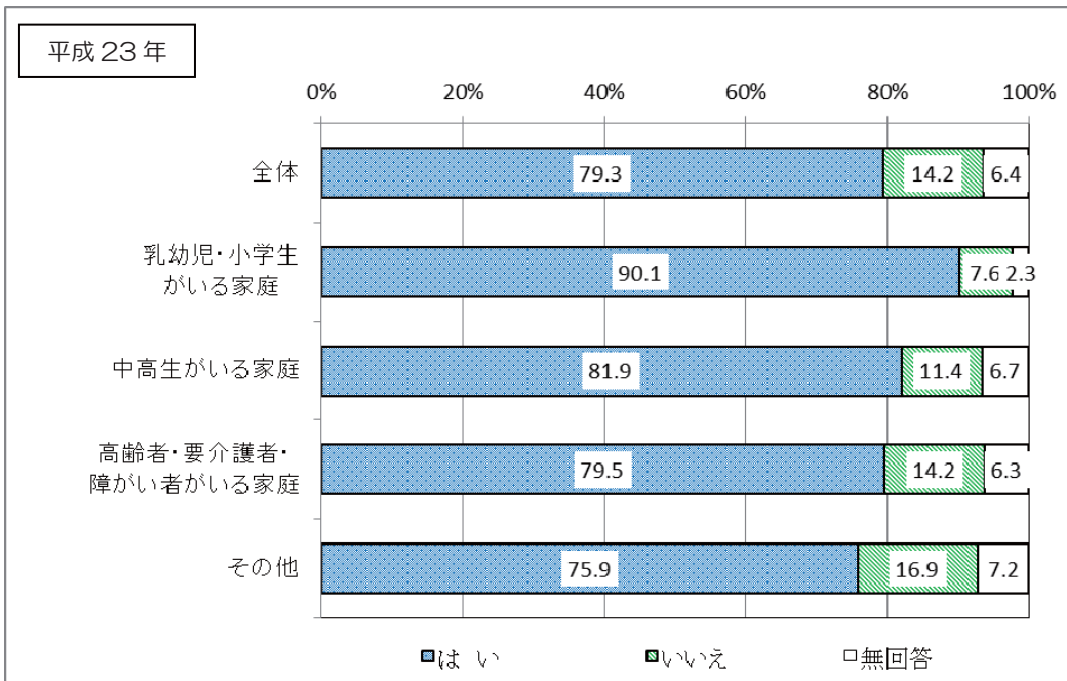
■「免疫力を高めるからだづくり」への取り組み。

健幸都市伊達市の理念に沿いながら、健康だて21の基本目標に掲げる5つの柱の更なる推進をします。

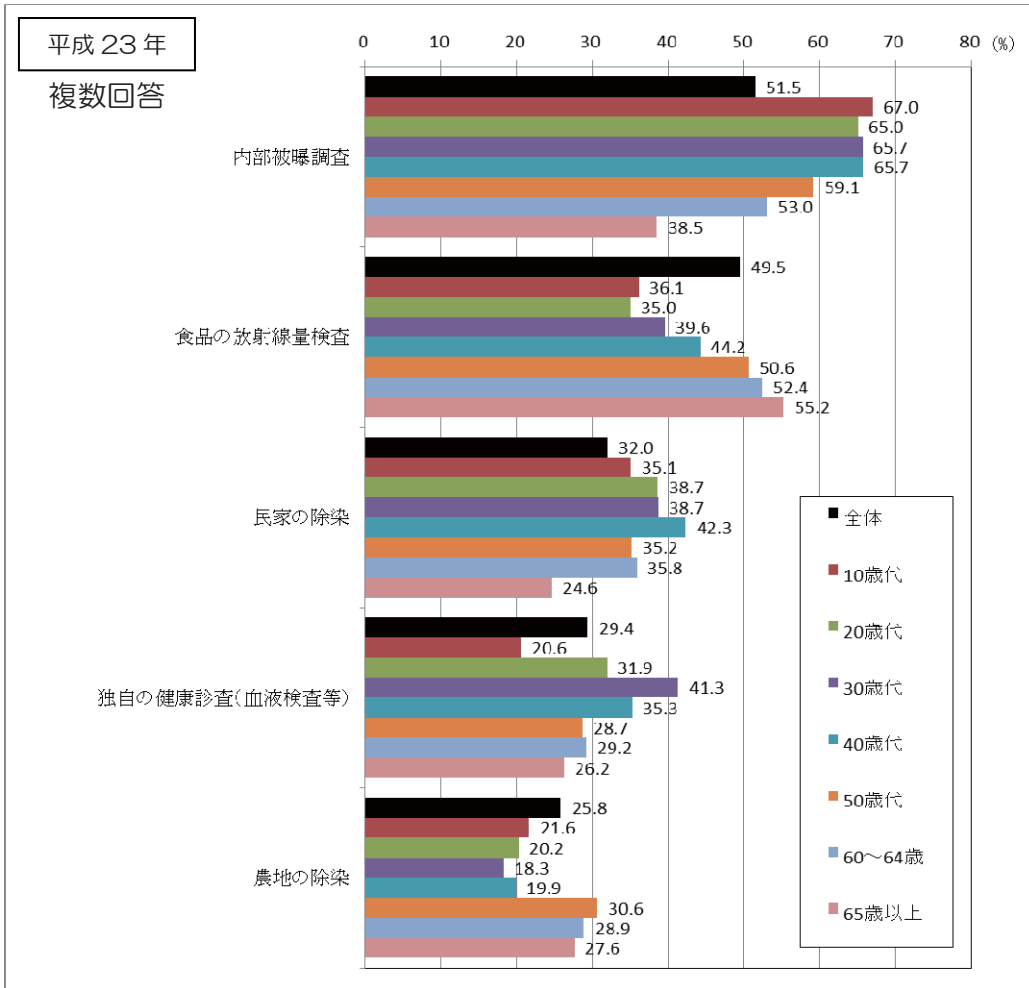
【放射能汚染についての不安の有無(年齢別)】 (市民アンケート調査より)



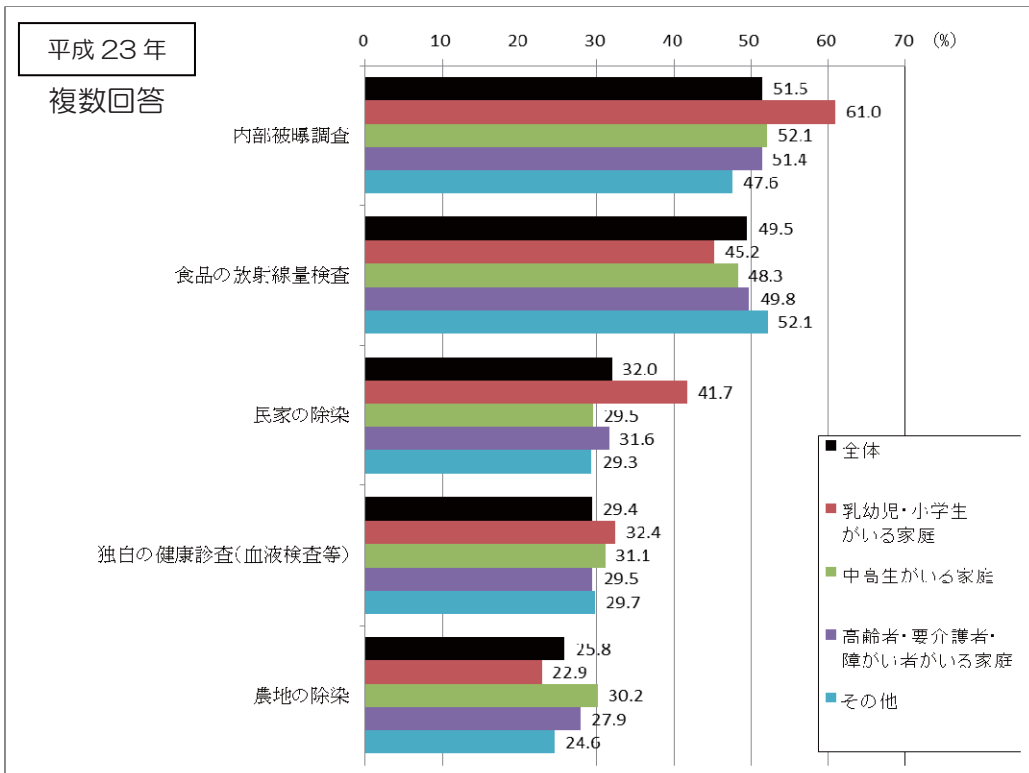
【放射能汚染についての不安の有無(家族構成別)】 (市民アンケート調査より)



【放射能対策の要望(年齢別：上位5位)】 (市民アンケート調査より)



【放射能対策の要望(家族構成別：上位5位)】 (市民アンケート調査より)



伊達市復興ビジョン概要

サブテーマ ～放射能災害からの復旧と夢あふれる伊達市の復興～

緊急重要課題：放射能災害からの復旧

◎徹底した除染による安心・安全な生活圏の確保

放射性物質の除染を最重要課題として取組み全ての市民が安全で安心して暮らすことのできる社会を目指す

- ・安全な仮置場の確保を含め具体的な時期や方法を記載した除染計画を策定
- ・詳細な線量マップの作成と除染の迅速かつ効果的な推進
- ・環境放射線のモニタリング調査の充実・強化による正確で分かり易い情報提供
- ・放射能に関する正しい知識の普及
- ・避難した方々のコミュニティの確保と心のケアの支援

基本理念：夢あふれる伊達市の復興

1 未来を担う子どもや若者たちが誇りを持ってふるさとを再生

- 健康を守るための施策を進めることにより子どもから高齢者まで安全で安心して暮らすことのできるまちづくりの推進
- 「美しいふるさと伊達市」の再生・復興

2 災害に負けない安心・安全なまちの復興

- 災害の教訓を生かし、ハード・ソフト両面における様々な手段によるライフラインの確保ができる社会の構築

3 新しい視点による産業の再生と伊達ブランドの復興

- 除染による迅速な復旧に取り組み、安心・安全で持続的に発展しうる産業の再生
- 風評被害を一掃する取組みを行うとともに、伊達ブランドの再生及び開発の支援

基本施策

1 子どもや若者たちの健やかな成長を育む環境の整備

教育や福祉分野の施策充実により安心して子供を産み育てられる環境を整備する

- ・安心して子どもを産み育てられる環境整備の推進
- ・屋外でも安心して遊び、運動できる環境整備の推進
- ・市民の文化レベルの更なる向上と「美しいふるさと伊達市」の歴史や文化財などによる観光PRの展開
- ・放射能及び再生可能エネルギーについてなどの環境教育の推進
- ・子供たちが希望をもって未来に前進していけるための教育の推進

2 市民の命を守る防災体制の強化

防災体制を見直し、災害時における迅速なライフラインの確保ができる体制を作る

- ・今回の災害を教訓に、防災に関する計画の見直し、防災機能の強化
- ・災害時にも情報通信網などのライフラインが確保できる仕組みの構築
- ・災害時における保健・医療・福祉サービスを確保できる体制の整備
- ・防災リーダーの育成や防災に関する情報の提供
- ・防災教育・防災訓練などにより市民の防災意識を高める
- ・災害協定を締結するなどによる防災力向上と応援体制の強化

3 安心して暮らすための健康づくり

市民が安心して住み続けることができるため、また、将来の伊達市を支える子供たちのため、健康管理対策を推進する

- ・市民が健康で元気に幸せに暮らせる「健幸都市」構想の推進
- ・長期にわたる市民の健康管理の実施
- ・充実した保健・医療サービスの提供
- ・食品放射能と環境放射線のモニタリングの充実・強化による正確な情報提供
- ・内部被曝を最小限に抑えるため、食品検査の徹底と食生活指導対策の実施

4 風評被害の解消と伊達ブランドの全国発信

風評被害の払拭と購買・消費意欲の向上を図り、生産物の価格や信頼の回復に努める

- ・徹底した生産物のモニタリング調査を行い安全性を全国に発信
- ・市内の生産物に付加価値をつけた伊達ブランドの確立

5 雇用の創出による生活基盤の確保

震災復興を機に、これまで以上の産業活性化を進めるため、既存の施策にとられない新たな視点での企業の誘致や起業の推進による雇用の創出を図る

- ・特区制度などを活用した土地利用計画などの見直し
- ・農・工・商業などの産業再生のための支援策の実施
- ・森林などの放射性物質の除染に伴う林業再生と新産業の創出
- ・再生可能エネルギーの導入推進

復興ビジョン実現のため

1 国、県などとの連携

復興特区などを活用するなど、国や県が実施する事業・支援との連携や整合を図り、効果的な復興を進める

2 復興のための財源確保

復旧・復興に係る関連事業に要する財源確保のため、国や県に対し財政支援や税制度の優遇措置などを要請し、より効率的な行財政運営を進める。東京電力には、放射能災害に伴う損害賠償を求める

3 市民協働による復興の推進

今回の大震災を契機にこれまで以上に市民同士の絆を強め、市が先頭に立ち、市と市民が役割分担しながら連携・協働して効果的な復旧・復興に取り組む